

新収蔵品展

これくしょん・ぎやらりい 2F

2011.4.16(土) ▶ 5.22(日)

新入生の季節、当館コレクションにも新しい仲間たちが加わりました。

平成22年度の新収蔵作品は、13作家29点。これらはすべて作家のご遺族や関係者などからの寄贈によるものです。地域別には、北海道ゆかりの作家が大半を占めます。本道で日本画の礎を築いた山内弥一郎(1885～1954年)、北海道美術史に足跡を記

した今田敬一(1896～1981年)、大正から昭和に活動した大塚謙三(1901～36年)、水彩の分野で着実な歩みをみせる志賀迪(1929年～)、大胆でモダンな木彫を生みだした砂澤ビッキ(1931～89年)、制作、評論、教育と多方面で活躍した木路毛五郎(1936～2003年)、戦後北海道の具象絵画を代表する岸本裕躬(1937～2011年)、金属や廃材を用いた造

形で知られる榎原武正(1942年～)、時をテーマに制作活動が続ける中江紀洋(1943年～)、道東を拠点にガラス彫刻を制作する嶋崎誠(1954年～)があげられます。あわせて、独創的な版画作品で知られた一原有徳(1910～2010年)による版画原版も資料作品として収蔵されました。

また道外では、日本近代を代表する水彩画家・中西利雄(1900～48年)、フランスで活躍し、同地を終の棲家とした画家・藤田嗣治(1886～1968年)、そして藤田と交流のあったエコール・ド・パリの画家アメデオ・モディリアーニ(1884～1920年)らの作品も忘れることができません。

当館コレクションの新顔たちをお披露目する新収蔵品展、どうぞおたのしみに。

※会期中、一部展示替えを行います。



NEW

山内弥一郎《農夫》1923(大正12)年頃
十勝平野を耕す農夫たち。鮮やかな緑色は、洋画から日本画へ転向した時期の作者の作品に多くみられる。



NEW

岸本裕躬《美幌福住原生林》2006(平成18)年
原生林に棲息する植物や昆虫の姿を通じ、生命の循環やはかなさを描いた作品。